

研究 主題	互いに高め合う環境の中で、よりよく考え表現することのできる生徒の育成 －社会的事象の因果関係を考察する学習を通して－
----------	---------------------------------------------------------------

## 第2学年社会科学学習指導案

指導月日 令和3年11月5日

所属校名 富谷市立富谷第二中学校

氏名 千葉 真史

### 1 単元名 「明治維新」（東京書籍 新編新しい社会 歴史）

### 2 単元の目標

- (1) 富国強兵・殖産興業，文明開化の風潮などを基に，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解することができる。〔知識及び技能〕 C(1)ア(イ)
- (2) 自由民権運動，帝国憲法の制定などを基に，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的地位が向上したことを理解することができる。〔知識及び技能〕 C(1)ア(ウ)
- (3) 明治維新の諸改革の目的，議会政治や外交の展開などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わりについて，近代の社会の変化の様子を考察し，表現することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕 C(1)イ(ア)
- (4) 明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わりについて，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする。〔学びに向かう力，人間性等〕

### 3 単元観

本単元は，中学校学習指導要領（平成29年告示）の「社会〔歴史的分野〕2内容C近現代の日本と世界(1)近代の日本と世界ア(イ)「明治維新と近代国家の形成」，(ウ)「議会政治の始まりと国際社会との関わり」，イ(ア)「明治政府の諸改革の目的，議会政治や外交の展開」「近代化がもたらした文化への影響」「世界の動きと我が国との関連」を基に設定している。

この単元までに，欧米諸国の市民革命・産業革命，アジア侵略，ペリーの来航と日本の開国について学んだ。本単元では，明治新政府が，欧米諸国と新しい関係を築く中で廃藩置県や学制・兵制・税制の改革，殖産興業，憲法の制定と議会政治の開始などの諸改革を断行していったこと，人々の生活が変化していったことを取り扱う。諸改革の目的はどこにあったのかといった視点で考察させたい。

### 4 生徒の実態〔第2学年3組34名〕

#### (1) 授業の様子から

一斉形式の授業においておおむね静かに話を聞くことができ，課題に真面目に取り組むことができる。しかし，教師の発問に対して積極的に挙手し答えようとする生徒は少ない。また，グループ形式の授業では必要な時に班員に聞いてみるという姿は見られるものの，積極的に意見交換しようとする姿は多くない。教師による生徒同士のつなぎ，前向きに取り組める魅力的な課題設定，一人一人の生徒に役割を与えて交流を促していくことが重要と考える。

### 5 指導観

富谷市では「学びの共同体」理論を取り入れた授業実践を行っている。これに基づき，本時では，みんなが「挑戦してみたい」と思えるような発展的課題（「ジャンプ課題」）を提示するよう努めている。これらの課題に取り組む場面では，少人数形式での学び合いの形を採ることが有効である。その

際、社会的事象間の因果関係について想起させることや、文章にまとめる支援が重要であり、普段からの働き掛けが必要となってくる。このことを常に意識しながら指導していきたい。

今回の単元では、アジア侵略に乗り出した欧米諸国に対し、明治新政府がどのような目的を持って何を行い、どのように立憲国家を作り上げていったのか、といったことについて扱う。各事象間の因果関係をまとめ、考察・整理し、考えたことを文章化できるよう支援していきたい。

## 6 研究主題との関連

### (1) 互いに高め合う関係を作る工夫

生徒が学び合いに取り組む際、一人一人の生徒に注意を向け、ちょっとしたつぶやき、疑問点を生徒全体に共有していくことが重要である。役割を与えたり、他の班の情報を得る場面を設けたりすることで、生徒の間で互いに議論が活発になるようにしたい。

### (2) 社会的事象の因果関係を考察するための工夫

思考ツールとして「因果関係マップ」というものを設定した。これは、教科書や資料集などに書かれている文章を丸や矢印などの概念化された図で表す、というものである。こうすることで文章だけでは理解しにくかった社会的事象の連続性が捉えやすくなる。各事象間のつながりを「原因と結果」として捉え、その間を直線矢印で表す。ただし、原因と結果というものは、幾重にも連なっていくものであることに留意する。例えば「A→B→C」という3つ以上の事象になることもあり、Aを原因とすればBは結果であり、Bを原因とすればCが結果となる。また、原因や結果は複数個が一つに連なったり、逆に一つが複数個に枝分かれしたりすることもある。こうしたことを資料から読み取り、自由に図に表し、思考を整理することを目指す。

学習が進んできたら、「誰かの意思が介在する場合」（「手段・目的」を波線矢印で表す）についても取り入れる。更には複数の授業や単元にまたがる事象間の因果関係も捉えることを目標とする。

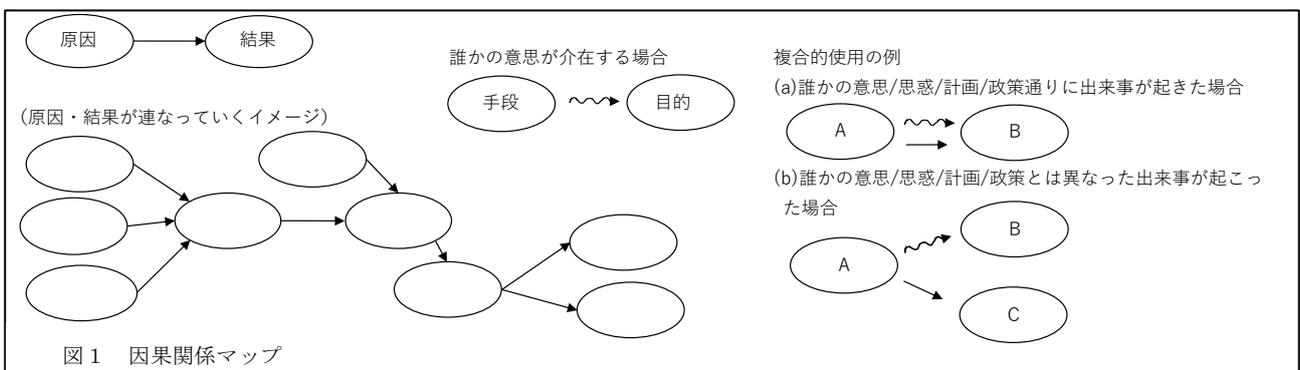


図1 因果関係マップ

### (3) 表現するための工夫

前項の「因果関係マップ」を作成した後、これを文章化したり、考察してその結果を文章に盛り込んだりする学習を行う。

#### ① 因果関係マップを文章化する学習

例えば、「原因（○）」と「結果（▲）」であれば、「○が起きたことにより、▲となった」や、「手段（□）」と「目的（◆）」であれば、「◆するために、□が行われた」といった文章化が考えられる。複合的使用では、例えば図1 (a)であれば、「Bを実現するためにAを行い、その計画通りの結果となった」、図1 (b)であれば、「Bを実現するためにAを行ったが失敗し、Cを引き起こした」といった文章化が考えられる。

#### ② 因果関係マップを基に考察し、文章化する学習

作成した因果関係マップを用いて、例えば、「もしも～だったらどうなっていたらだろうか」や「なぜ～だったのだろうか」といった発問に対して考察し、文章で表現する学習を行う。

## 7 単元の指導と評価の計画

## (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○富国強兵・殖産興業，文明開化の風潮などを諸資料から読み取り，明治維新によって近代国家の基礎が整えられたことや，人々の生活が大きく変化したことを理解している。 C(1)ア(イ)</p> <p>○自由民権運動，帝国憲法の制定などについて諸資料から読み取り，立憲制国家が成立し，我が国の国際的地位が向上したことを理解している。 C(1)ア(ウ)</p>	<p>○明治維新の諸改革の目的，議会政治や外交の展開などに着目して，事象を相互に関連付けたり，因果関係を考察したりして，明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わりについて，近代の社会の変化の様子を考察し，表現している。 C(1)イ(ア)</p>	<p>○明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わりについて，そこで見られる課題を自分と関連付けて主体的に追究，解決しようとしている</p>

## (2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時8/8）

時	主な学習内容	評価規準	評価方法	
1	新政府の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新政府の方針や諸改革の内容，中央集権国家の体制が確立していったことを理解する。</li> <li>・明治維新による社会の変化，特に身分制度の廃止の意義と問題点について考察し，表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新政府の成立と，近代国家の基礎が整えられていったことを理解している。（知技）</li> <li>・明治維新による幕藩体制や身分制度変化について主体的に追究，解決しようとしている。（態度）</li> </ul>	観察 ワークシート，タブレット端末
2	明治維新の三大改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新政府が行った学制・兵制・税制の改革の内容を理解する。</li> <li>・明治維新の三大改革が人々の生活に及ぼした影響について考察し，表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学制・兵制・税制の改革の内容を理解している。（知技）</li> <li>・新政府が行った三大改革の影響を，江戸時代と比較しながら考察し，表現している。（思判表）</li> </ul>	観察 ワークシート，タブレット端末
3	富国強兵と文明開化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新政府が行った富国強兵・殖産興業政策の内容を理解する。</li> <li>・文明開化の風潮について，社会の様子や人々の生活が大きく変化したことを考察し，表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代的な産業発展のために政府が進めた富国強兵・殖産興業の内容を理解している。（知技）</li> <li>・文明開化の風潮，人々の生活が大きく変化したことを，江戸時代と比較しながら考察し，表現している。（思判表）</li> </ul>	観察 ワークシート，タブレット端末

4	近代的な国際関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代的な国際関係の下で進められた、明治初期の外交政策を理解する。</li> <li>明治初期の外交政策について、岩倉使節団の目的と帰国後の近代化への影響を考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩倉使節団の派遣や、清や朝鮮への外交政策を理解している。（知技）</li> <li>外交政策について、欧米諸国やアジア諸国との関係から考察し、表現している。（思判表）</li> </ul>	観察 ワークシート、タブレット端末
5	国境と領土の確定	<ul style="list-style-type: none"> <li>領土の確定について、近代的な国際関係の下で、新政府が行った外交政策を理解する。</li> <li>北海道の開拓と産業の関係、沖縄県成立の過程での中国との関係について考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国境と領土の確定について、北海道や沖縄などに対しての政策を理解している。（知技）</li> <li>蝦夷地と琉球王国が日本に組み込まれる過程について考察し、表現している。（思判表）</li> </ul>	観察 ワークシート、タブレット端末
6	自由民権運動の高まり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権運動が始まった経緯や、改革への不満から士族の反乱が起こった過程を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権運動のおこりや政党の結成、激化事件に至る過程を理解している。（知技）</li> </ul>	観察 ワークシート、タブレット端末
7	立憲制国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府が主導した憲法の制定過程、大日本帝国憲法の内容の特徴を理解する。</li> <li>議会政治が始まったことの歴史的意義や、現代の政治とのつながりを考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法の制定過程とその内容の特徴、選挙制度などを理解している。（知技）</li> <li>大日本帝国憲法の制定過程とその内容の特色を踏まえ、その特色と現代とのつながりを考察し、表現している。（思判表）</li> </ul>	観察 ワークシート、タブレット端末
8 本時	単元のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元で学んだことを基に、因果関係マップを作成する。</li> <li>因果関係マップを基に、日本が他のアジア諸国に先駆けて近代化した理由を考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本がほかのアジア諸国に先駆けて、近代化に成功した理由を、欧米諸国との関係と関連付けて考察し、表現している。（思判表）</li> </ul>	観察 出来事カード、模造紙、タブレット端末

## 8 本時の計画

### (1) 本時の目標

日本がほかのアジア諸国に先駆けて近代化した理由を理解し、欧米諸国との関係と関連付けて考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）

### (2) 本時の指導に当たって

前時までの授業で明治新政府の成立から大日本帝国憲法の発布を学習している。これを基に本時で学び合いを通して因果関係マップを作成し、問いに対して文章で答える。

## (3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される生徒の反応・生徒の活動	形態	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
導入 2分	1 前単元の市民革命・産業革命を振り返る。 2 明治維新後の諸改革について振り返る。	一斉	◎現代の問題に触れることで、本時の学習への動機付けをする。	
展開 38分	3 【問い】を確認する。 【問い】なぜ日本は、欧米列強の植民地とならず、アジアで初の立憲国家となれたのだろうか。 4 本単元で学んだことを基にして因果関係マップを作成する。 ・本単元までの出来事を、3～4人の班で与えられた分担項目について因果関係マップにまとめる。 ・分担項目は①～④の4つ。9つの班があるので、1・2班が①、4・5班が②、3・6班が③、7・8・9班が④を担当する。 ・班員は自班の分担項目の出来事カードを持ち、これを並べ替えて模造紙に貼り付けて、因果関係マップを作る。(出来事カードの内容、分担項目、因果関係マップの解答例は(6)板書計画を参照) ◆出来事カードをどう並べたらいいか班員とともに考える。 ◆他班を見て、自班の模造紙を修正する。 ・まとめた模造紙を黒板に貼る。 5 【問い】について考える。 ・【問い】に対する答えは班の代表がまとめ、ロイロノートに記述して学級全体で共有する。(予想される考察の例については(6)板書計画を参照)	班	◎【問い】を提示し、これに答えるために因果関係マップを作成することを説明する。 ◎出来事が記入されたカードと白紙のカードを配布する。 ◎最後に班ごと発表することを伝える。 ◎机間指導をしながら、生徒のつぶやき、疑問を全体に紹介し共有する。 ◎他班を見て回ってもよい時間を設ける。 ◎黒板に貼られた模造紙をタブレット端末で撮影し、データを生徒に送り、その場で添削して共有する。	※思考・判断・表現（出来事カード、模造紙を用いて記述を読み取る）  ※思考・判断・表現（タブレット端末を用いて記述を読み取る）
終結 5分	6 意見の共有と今後の学習への見通し ・提出データを皆で見て共有する。本時の目標に照らし合わせ、他の班の意見も含めて参考になる・手本としたいと感じるものをノートに写す。 ・現代の議会政治との関連を知る。		◎大型テレビに皆の意見を表示し、共有する。現代の議会政治との関連について触れる。	

(4) 本時の評価

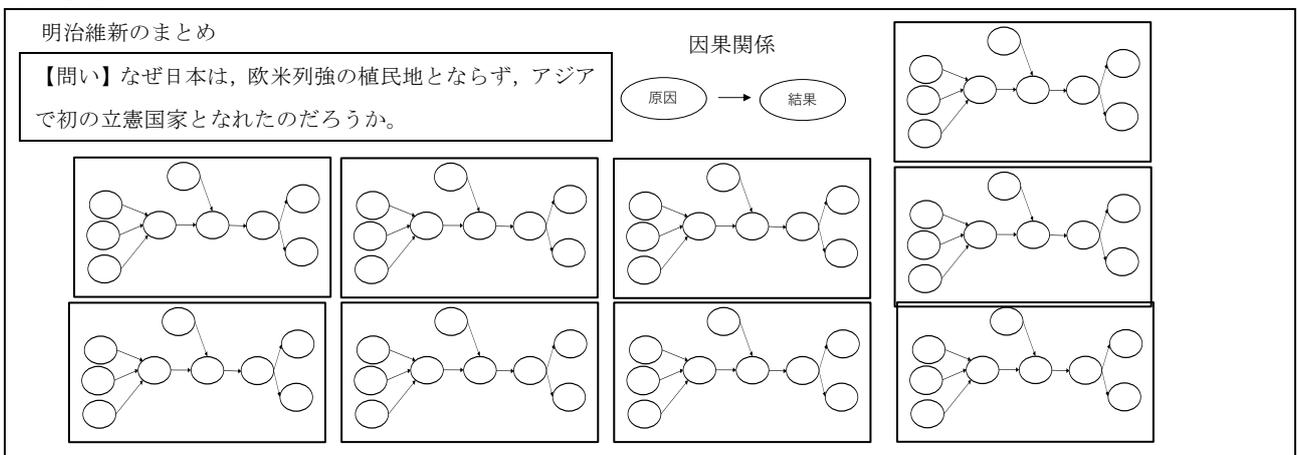
評価の観点	評価規準	十分満足できる（A）	努力を要する生徒（C）への手立て
思考・判断・表現	日本がほかのアジア諸国に先駆けて、近代化に成功した理由を、欧米諸国との関係と関連付けて考察し、表現している。	日本がほかのアジア諸国に先駆けて、近代化に成功した理由を、欧米諸国との関係と関連付けて、因果関係マップを用いて考察し、表現している。	班員と交流し自ら学び取ることができるよう支援する。難しい場合は、カードと教科書を見比べ、類似の文章がないか問い掛け、関連を理解できるように支援する。

(5) 準備物

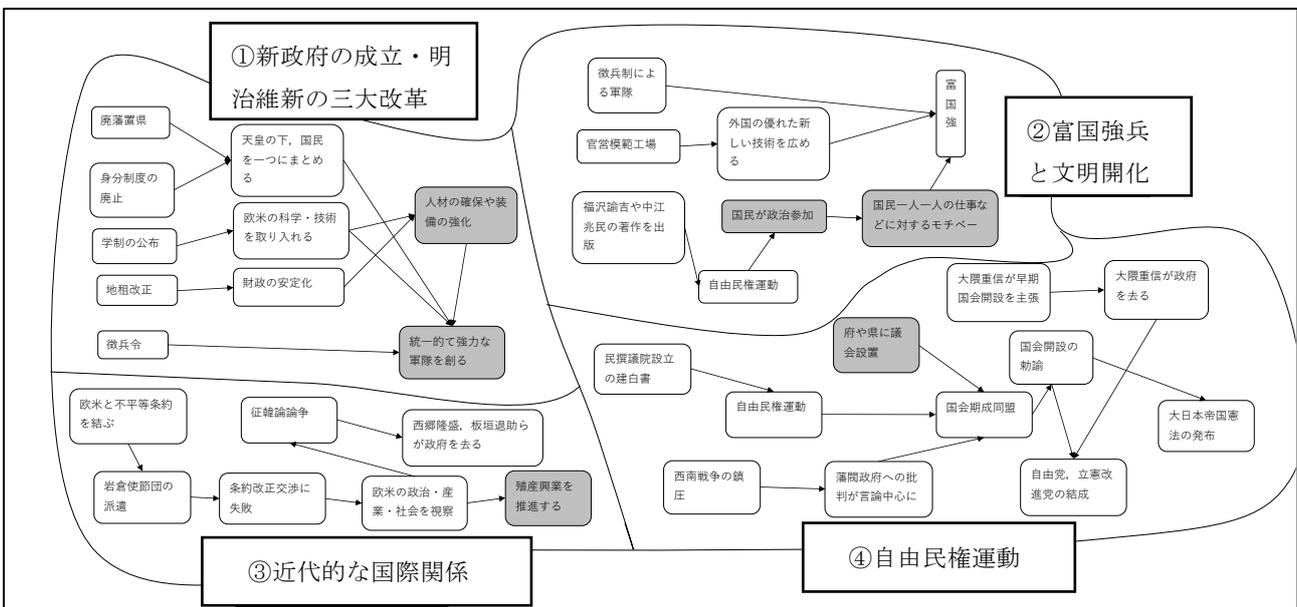
①教師：出来事カード、模造紙、セロハンテープ、マジック、iPad、AppleTV、大型テレビ

②生徒：iPad

(6) 板書計画



※出来事カードと因果関係マップの例（網掛けは配布した出来事カードにないもの）



※【問い】に対する予想される考察の例

廃藩置県や身分制度の廃止によって中央集権国家が早期にできあがり、進んだ制度や技術が取り入れられたから。	岩倉使節団が欧米を視察したことによって殖産興業が加速し、強力な軍隊が出来上がったから。	西南戦争が鎮圧されたことで政府の批判が自由民権運動に集中し、憲法発布・議会政治の開始を後押しした。	西南戦争が鎮圧されたことで藩閥政府への批判が言論中心になり、自由民権運動が加速して比較的早期に議会政治を始めることができたから。
-----------------------------------------------------	---------------------------------------------	---------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------